27年度認知症SOS探索訓練のまとめ

訓練について印象に残ったこと
参加者の言葉

電車を使っての移動
GPSを使った訓練
一軒一軒訪問することで様々な意見を聞くことができた
住民を知ることができた
地域性をみれた
周知役の訪問を快く受け入れてくれる住民が多かった

参加者の意見
（個人アンケート・役割別話

事務局がつけたポイント

認知症介護研究研修東京センター永田氏の講評

訓練したことでわかったこと、大事だと思ったこと、今後に活かせること
参加者の言葉

体験

体験するといざという時に行動できる

本番さながらは忘れられない体験になる

誰に連絡すればいいのか段取りが少しわかった

地域

家族が気軽に地域の人にお願いに行ける、家族が知らない情報を日ごろのつながりの中で知っていてくれる人がいる

地域に家族のことをお願いすること
日ごろから地域の人を知っていれば声かけができる
近所の人の話を日ごろから聞いておくと探索の参考になる
（本人の服装やスケジュールに）関心を持って見ていないことに気づく

本人に関心を持つ

周知

回覧版＋αの周知方法を検討

回覧版の周知は地域による差があった。有効な地域もあった。

探索方法

探索は地域を知っている人の協力が重要
探索エリアは狭く
組織をしっかりつくる

道がわからない
土地を知っている人でないと探索が難しい
広いエリアで一人の人を探すことは大変
中里地域は範囲が広く組織をしっかり立てないとスムーズにいかない
留守が多かった
歩いている人がいない
川や側溝、見落としそうな個所もいっぱいあった

GPS

GPSは探索エリアを絞る時に有効
GPSの特徴を理解する必要がある（建物内は基地局を示す）
探索時に使いやすい、本人にとって役に立つ、普段使うものという視点でGPSの活用を考えたほうが良い
様々なGPSを試す必要がある

本人に必要なアイテムが探索に役立つと良い

アイテムの使用時は充電などの支援が必要

他世代とのつながりを楽しむ

GPSの精度が高く驚いた
GPSは取り扱いが難しそう、もっと簡単なものがいい
居場所の見当がつかない人の探索は非常に困難だと感じた
FMゆきぐにが随時放送してくれることがわかった
GPSの普及は必須だと感じた
GPSは位置がわかりやすいが建物の中では基地局が表示されることがわかった
GPSが時計代わりになるかもしれない(時計が見やすかった)
携帯を持っている高齢者が多いGPSを使った訓練は必要だと思った
どこっち（GPS)は普段時計をつけていないと違和感がある 、袋の中に入れて、おいてしまうとわからなくなる

家族の思い

家族の混乱、不安について理解し支援する必要がある
・介護事業所は制度と家族の間に役割を意識して入る
・警察署職員は家族の気持ちを理解した説明や対応をする

対応

警察での情報の伝え方を経験する必要がある
SOS南魚沼についての周知
警察への早めの相談の重要性の周知

家族はわからないことだらけで一人で警察に行くことは難しい
家族は周りの人の手助けがあって助かった
警察ではSOS手配票についてもう少し説明してほしかった。
駐在所の職員もSOS南魚沼に慣れてほしい。
家族がSOS南魚沼を理解し申請するには誰かのサポートが必要 警察から質問されると不確実な情報を答えてしまった。不確実なことはわからないと答えたほうが良いと思った

本人の思い

警察への相談はいなくなったらすぐのほうが良いと思った（なるべく大ごとにしたくない気持ちから自分で探そうとしてしまう）

行方不明者の気持ちを理解する
発見されたときの対応を知っている必要がある

普段着のためか不信がられなかった
行き会う人に声をかけたいという気持ちになった
発見されたときに多くの人に取り囲まれ、悪いことをしたような気になりどうしていいか困った

改善が必要なこと[実際の探索のとき]
参加者の言葉

家族は探索の様子がわからず不安になった

SOSチームに動いてほしい時の依頼窓口をわかりやすくしてほしい
夜間休日に対応する窓口の周知
発見時、一目で連絡先が分かるものがほしい
地区に詳しい人の参加が必要
町内の人がもう少し参加してほしい（多数）
町内会長や各班長も参加したほうが良い
地域の人が多く参加し中心に動けると良い
介護者がもう少し参加したほうが良い
地域のつながりをより強く（普段の声かけ、サロンなど）
地域の人が目撃者になる（関心を持ってもらえる）ような周知
町の外から来た人とのつながり

エリアを狭く区切ったほうが探しやすい（複数）
行方不明者のチラシ（情報）が多いほうが良い
出発前の情報提供をもっと丁寧に
探索班の負担、探索班の状況把握、探索班の報告時間と内容の明確化（複数）
探索順路が決まっていたほうが探しやすい
探索班同士の状況が共有されるとよい（タブレット　メール等）
探索班の情報の伝え方
本部の指示だしは一人では大変。
探索班から15分おきに報告があるとよい。

班ごとに地図が1枚では探しにくい
対策本部の電話が混んでつながらない
周知班と探索班の役割分担

訓練を通じて偏見をなくす

家族の混乱、不安について理解し支援する必要がある
家族が探索の経過をわかるようにする
家族の思い

いざという時に連絡する窓口をわかりやすく周知する
多くの人が連絡窓口を知っている
周知
誰にでもわかる周知の仕方

本人・家族のこと、地域の環境をよく知っている地域の人が多く訓練に参加するようにする
周知

対策本部は探索の効率、探索者の健康面の対応を検討する必要がある
探索方法

探索班のみとし、参加者みんなで地域への周知啓発（大規模住民啓発事業）
周知

改善が必要なこと [普段からの取り組み]
参加者の言葉

行方不明の相談を受ける警察職員は相談者に安心できる声掛けとネットワーク南魚沼（特に情報の扱い）についてわかりやすく説明してほしい
介護保険事業所は家族と警察の橋渡し役を担う
交番でSOS南魚沼の受付ができると良い。家族からの切実な願いです
SOSメールFAXの誤記
SOSFAXについて職員の対応マニュアルが必要

行方不明になる恐れのある人が早く気付いてもらえる対策の検討が必要
安心できる、ホッとできる声かけができる人が多くなるような取り組みの継続（認知症サポーター養成講座）
日ごろの取り組み

アクションミーティングについて印象に残ったこと　参加者の言葉

自分だったら、家族だったらと考えることができた
いろんな立場の人が良い地域を作ろうと一生懸命考えていることが素晴らしい
幅広い関係団体が参加し大変意義があった
町全体で取り組んでいて素晴らしい
地域全体で何とかしようとする意志がすごい
認知症の方を地域全体で見守る意識の強化につながった
多くの人の参加、地域の参加が増え素晴らしいが訓練という意識が参加者にある
地域ごとに課題があることに気づいた
アットホームな雰囲気で楽しく参加できた
多職種と交流できてよかった
町内事業所の横のつながりがより強くなった

アクションミーティングは楽しく、認知症を自分のこととして考えられる時間になった
いろんな立場の人が話し合うことで仲間意識が生まれた。
訓練地域の住民が多く参加したほうが効果があると思う人が多かった。
小さな町でも地域ごとに歴史や人のつながりの違いなど特性がある

自分事という意識
仲間意識
地域で実施する効果
地域理解地域特性

そのほかの意見

関係した研修に参加したい

継続して行うことが重要
「継続は力なり」続けることで地域の人が多く参加してくれると良い
定期的に続けてほしい

独居や情報の少ない人を探す手順の訓練もあっても良いのでは
名前が言えない設定の訓練も必要では

認知症ケアパスはとても役に立つと思う

地図に危険個所の印をつけながら歩く

地域の人がもっと参加してほしい
人が外に出ている時期に訓練するとギャラリーが多くなる

参加者同士がもっと仲良しになる仕組みがあると良いかも

継続の必要性 → 継続 → 継続

いろんな事例を経験したい → 経験 → 見守りの目を増やす

情報を届ける → 周知 → 人の目に触れる機会を増やす

多くの参加者が見込める時期に実施する

参加者同士の共感に基づいたネットワーク化 → ネットワークの積み上げ → ネットワークの広がり

訓練参加者の状況に合わせたお楽しみ
ミーティングに参加してなくても訓練に関われるチャンスをつくる

講評　認知症介護研究研修東京センター研究部長　永田久美子氏

継続することが大事。1回目よりずいぶんスムーズに流れていた気がする。
これだけの人が一人の人を助けようと力を合わせることは素晴らしい。
ちょっと町を出ると他人ごとになっている人が多いのではないか。
本物さながらの役を超えて、取り組んでいた訓練だった。
忘れられない実感として、当事者の立場に立って考えた1日だったと思う。
今日の体験をどう生かすか。
認知症でわけもなく歩き回っていたわけではない。
訓練を通じて偏見を無くすことが大事。
見守りの目を少しでも増やしていこう。
チラシをもっと他の機会にも、人の目に触れるよう普段の生活の中に組み込んでいけないか。
町で作り上げた仕組みを誰もがわかりやすく伝えていけるような周知の仕方を検討
警察の「手配書」を変えて行かないと。悪いことをした人？偏見？
この先、今までと違う人がメンバーとなり輪が広まっていくことが大切。骨だけのネットワークにしないで、生きたネットワークにして行って欲しい。
　当たり前すぎて見落としていることがたくさんある。本人に関心を持つことが大切。
一人で頑張り過ぎず、多くの見守りを増やしていこう。
写真は後ろ姿、横向きも参考になります。
湯沢町は最初から「探索訓練」と言う言葉を使っていた。「捜索」だと迷惑なことをしたイメージがある。言葉の配慮は偏見をなくすために大事なこと。
GPSについては、探すほうの視点（着けてもらうという意識でなく）ではなく、本人にとって必要なもの、役に立つもの、本人に必要なアイテム＋α（たまたま探索機能）がついていて、いざという時に役に立つという本人視点で考えたほうが良い。（例えば・・お薬を飲み忘れてしまう人が、飲み忘れないようにアラームが鳴るものを持っていてそれにGPS機能がついているとか・・・・）

今後の訓練について

　訓練も三回目になり、具体的な課題が把握されるようになってきました。GPSの試行や電車を利用して行方不明になるなどは初めての経験でした。
家族や本家、支援者の役割をされた方は探索や周知で皆さんがいない場面（例えば交番に向かう道すがら・・・）も本番さながらに心配し、不安な思いを語り、対応を話し合っていました。
　継続が大事。継続が力になる・・と継続実施が必要との意見が多数ありました。
　アクションミーティングは幅広い関係機関が協力し、地域の状況に合わせて、地域全体で何とかしよう、自分事として、アットホームな雰囲気で楽しく参加できる話し合いの場となったようです。
　アクションミーティングに参加することで認知症の方を地域全体で見守る意識の強化になったという意見もありました。
　認知症の人の支援は身近な地域の人々の理解がとても重要であることから、一人でも多くの人が参加できるように、訓練実施地域の住民の方に、事前に、いつなら多くの人が参加しやすいのか聞き、地域行事の把握など地域の情報を得て訓練実施の準備をしてきました。しかし、病院を含め町内の介護保険事業所や住民が利用している近隣の介護保険事業所からは多くの参加がありましたが、訓練対象地域に住む人の参加が多くありませんでした。
　アンケートの中に「今までの訓練や取り組みを町民に情報提供し、理解してもらう方法を考える。**最終的には地域での実践が目標達成になる（町内の常会や集会を利用）**」とありました。高齢化の進行に伴い認知症の人が確実に増えてきます。相談窓口や専門機関も大事ですが、日ごろ一緒に暮らす地域の方々が認知症を自分の事ととらえ、理解し、自分のできることから支援を始めてもらうきっかけにこの訓練がなると良いと思います。
　今後も継続していきますので、今回参加された方も継続して、また、一人でも多くの人を誘って、介護保険事業所等の方は参加経験のない人が参加できるように配慮いただき、理解者支援者が増え、みんなが、”湯沢なら認知症になっても大丈夫！住み慣れた地域で、自分らしく、安心して暮らせる”と思えるようにご協力お願いいたします。
　美味しんぼ倶楽部と食推さんのおもてなしもとてもありがたかったという感想が多数でした。今回は寒い中、本当にありがとうございました。
湯沢町健康福祉部健康増進課